

**新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン（仮称）」とりまとめ案に対する
ご意見募集の結果について〈パブリックコメント〉**

○募集期間：平成28年3月11日（金）～平成28年3月24日（木）

○寄せられたご意見：6件

No.	意見の内容	左記に対する考え方
1	<p>小学生を対象とした稲刈り体験を行ったところ、親子共々初体験という家族も多く、良い活動であった。</p> <p>ただ、交通手段の確保など、費用的に厳しいものがあり、協力をお願いしたい。</p>	<p>小学校における米づくり体験については、食育や農業の持つ多面的機能の理解促進を目的として、石川田んぼの学校推進プロジェクト事業等により支援してきており、引き続き事業の実施を通じて取組みを支援してまいります。</p>
2	<p>女性関連のトピックスがいくつか挙がっていることはとても良い。新たな若い女性を呼び込むような、より具体的な施策も盛り込んでほしい。</p>	<p>ビジョンにおいて、女性が活躍できる環境整備を重点課題としており、具体的な施策は、毎年の予算の中で取り組んでまいります。</p> <p>また、農業人材確保・定住促進事業等により、女性や若者等の移住就農の促進に取り組めます。</p>
3	<p>今、能登で頑張っている人たちが手を取り合い、協力していかなければいけないと思う。地元の食を提供してくれる農業者との繋がりを求めているレストラン経営者（県外からの移住者）がいる。農業者や飲食店経営者等々の情報交換の場をつくり、例えばうまくやっているケースや残念ながら撤退してしまったケースなど、いろんな情報をやりとりし、今後に活かしていくべき。その辺のコーディネートを行政をお願いしたい。</p>	<p>スローツーリズム等の推進による人を呼び込む農村づくりを重点課題としており、食をはじめとする里山里海の魅力を地域で一体的に提供できるよう、ネットワーク化を支援することとしており、ネットワーク化により、事例や教訓を今後に活かせるようにしてまいります。</p>

<p>4</p>	<p>園芸農家は家族経営が多く、後継者がいない農家もあり、今後、離農等による産地の縮小が想定されます。そこで、経営体質を強化し、後継者を育成するために、現在、複数の園芸農家による法人化を検討しています。新ビジョンでは、園芸農家の法人化支援を盛り込んではどうでしょうか。</p>	<p>新ビジョンでは、地域の農業を担う多様な担い手を育成することを施策の柱に位置づけており、その中で、園芸農家も含め、法人化や経営継承、産地継承を支援する旨、記載しています。</p>
<p>5</p>	<p>ビジョンには卸売市場の記述が少ないが、県は個販や直売に力を入れていくということか。</p>	<p>卸売市場の代金回収や販売等に係るメリットは大きく、今後とも重要なマーケットと認識しています。</p> <p>ビジョンでは、需要者のニーズに対応した生産・販路の拡大を重点課題としており、卸売市場も含め、市場（マーケット）のニーズに応えた流通対策に取り組んでまいります。</p>
<p>6</p>	<p>石川県には美味しい地酒が多く、食とは密接な関係があると思う。農業ビジョンにお酒の振興を入れるわけにはいかないかもしれないが、水田をフルに活用するため、酒米を振興してはどうか。</p>	<p>需要者のニーズに対応した生産・販路の拡大を重点課題としており、用途などに応じた生産を支援してまいります。</p>